**題名：　　　言葉を学ぶ努力が心を開く**

**お名前：　市原幸彦**

　国と国との壁を作る大きな要因の一つは言葉でしょう。異なった文字、文法、発音を新たに学ぶことには大きなエネルギーが必要です。日本語と韓国語はよく似ていると言われます。同じアルタイ語族に属し、文法もほとんど同じです。ただ、文字がまったく異なっています。発音も韓国語の方が複雑です。「韓国語を学ぶことは簡単です。日本語と文法がまったく同じですから」という人がいました。彼は英語も得意で、たぶん外国語に対して、なじみやすいセンスを持って生まれたのかもしれません。私の場合は、そうではありませんでした。新たな文字に挑戦することには抵抗がありました。ただ、どうしても学ばなければならない強い要請を感じていました。

　私は、古代史に関心を持ち、日本の源流、さらには韓民族の源流を求めて、古朝鮮や東夷族の歴史を知るため、どうしても韓国語を学ぶ必要性を感じました。そうした古代史の舞台が韓国や中国大陸にあり、また研究の主流も韓国や中国にあるからでした。ですから年齢がいってからですが、我流で韓国語や中国語を少しづつ学びました。こうして、それらの文献もある程度読めるようにはなりましたが、会話の方はいまだにほとんどだめです。ほんの片言くらいしか話せませんしあまり聞き取りもできません。それでも片言でも話せるのは、韓国の方、在日韓国人の方との交流にはいい影響を与えてくれています。

　10年ほど前、韓国に取材の一環で一人で飛行機でいったときのことでした。当時は日韓関係が最悪のときでした。CAから渡された搭乗員票がハングルで書かれた韓国人用だったので、隣に座っていた若い韓国人男性に片言ながら聞いて、日本人用の票をCAからもらうことができました。仁川空港に着いて、席を立とうする彼に、手をかけて「ヨロカジ、コマプスムニダ（いろいろありがとう）」と礼を言うと、彼は意外そうな顔付きをして、少しはにかむように彼も頭を下げました。日本人から丁寧にしかも片言でも韓国語で礼を言われたことが嬉しかったのでしょう。ちょっとした出来事でしたが、彼との間には、わだかまりも無くなって、心が通い合い互いに敬意を感じ合えるような雰囲気がありました。

　また、数年前地元の仙台でのことでしたが、年配の在日韓国人男性との出会いがあります。70歳くらいの方ですが、日本で生まれ育った在日２世の方と思います。ですから彼もあまり韓国語を話せません。ひとしきりお互い韓国へ行ったときの話をしたあと、その彼が最後に「コマプスムニダ」と言ってきたので、私も「コマウォヨ」と少し言い方を変えてお返事しました。そうすると普段は気難しそうな方なのですが、ニコニコして「うん、コマウォヨ」と言ってきました。私も少しは韓国語を理解していることが嬉しかったのだと思います。

　KPOPや韓流ドラマの影響で、現在、日本の若者の中にも韓国語を学ぶ人が多いようです。どうしても学びたいという切なる思い、愛情から、彼らは学び始めます。それと同じではないでしょうか。本格的な会話ができなくともいいのです。少しでも相手の国の言葉を知っている、学ぼうと努力している、そういう姿勢が大事だと思います。特に年齢がいっている場合は、忘れっぽくなっています。しかし大変でも、継続して日々努力している姿勢が相手にも響くのではないかと思います。相手との違いを認め、心を開いて少し勇気を出して一歩踏み出し言葉をかけることも重要でしょう。

　ところで、私が、東夷族や古朝鮮の歴史を探る理由の一つは、日本人も韓国人も北朝鮮の人も源流の一つを同じくしていて、もとは同じ兄弟にような存在だったからだと考えるからです。中国の各王朝には正史があって、漢書、後漢書、魏書、唐書などが編さんされました。それらの中に東方の異民族について書かれた「東夷伝」があり、それがさらに高句麗条、韓条、倭（日本）人条、鮮卑条などと分けて書かれています。よく耳にする「魏志倭人伝」は、正確には「三国志魏書東夷伝倭人条」となります。朝鮮人も日本人も同じ東夷の民族なのです。東夷の国々にはもともとよく似た風俗や言語、宗教がありましたが、それが歴史を経るにしたがってそれぞれ独自の歴史、文化、言語をもつようになりました。

　東夷族から発展した古朝鮮は大陸から朝鮮半島に流入し、日本にも至りました。また、東夷族は一方では中国の歴史、文化にも多大の影響を与えてきました。こうした研究はたいへん興味深く、これからも継続していくつもりですし、したがって語学の勉強も必須のものとして、これからも続けていきたいと思っています。